

企画展「一絃の琴・二絃の琴～現在に伝わる和の響き～」



秋の企画展は、日本の伝統楽器「一絃琴（いちげんきん）」と「二絃琴（にげんきん）」をとりあげました。

一絃琴と二絃琴は『琴（こと）』という漢字を用いて『琴（きん）』と発音します。この違いはとても重要で、我々が現在『こと』と聞いてイメージする「十三絃箏」は『箏（そう）』と呼び、『琴（きん）』とは別の楽器です。『こと』という言葉は、もともと絃楽器全般を指すものでした。源氏物語では、「さうのこと」（箏）、「びはのこと」（琵琶）、「きんのこと」（琴）などと記されています。箏と琴はどちらも絃を弾いて音を出しますが、その演奏方法が異なります。箏は十三本の絃が張られ、それぞれの絃に琴柱（ことじ）を立てて音を定めて演奏します。一絃琴と二絃琴は、全長 1 メートルほどの木製の胴に一本または同じ音に調律された二本の絹弦を張り、右手人差し指と左手中指に蘆萱（ろかん）という義爪をはめ、左手で絃を押さえて音を定め、右手で絃を弾いて音を出します。このように、「琴」は奏者自身で音を定めるところが特徴であり、また難しいところです。また、一人の奏者が奏する音は基本的に単音（一つの音）です。その一つの音に心を込めて演奏することをとても大切にされています。

一絃琴は須磨（兵庫県神戸市）の地で楽器が誕生したという伝説（平安時代）から別名「須磨琴（すまごと）」とも言われていますが、現在に続く一絃琴のルーツは江戸時代に起こりました。幕末の頃には坂本龍馬などの志士達が一絃琴の集いと偽って討幕の密会をしたというエピソードもあるほど一絃琴愛好者は

多かったといわれています。二絃琴は、「八雲琴（やくもごと）」と「東流二絃琴（あずまりゆうにげんきん）」に分かれます。八雲琴は箏の名手中山琴主（なかやまことぬし・1803～1880）と葛原勾当（くずはらこうとう・1812～1882）によって創作されました。偶然にも両者とも同じ頃に神託を受けて創案した神聖な楽器のため、本来は神前の儀式などで用いられます。東流二絃琴は、歌舞伎の囃子方であった藤舎蘆船（とうしゃろせん・1830～1889）が歌舞伎や長唄などの伴奏に適するように八雲琴を基にして考案しました。

一絃琴と二絃琴は、ともに江戸後期から明治にかけて流行しましたが、現在演奏者は少なく伝承地も限られているためあまり知られていません。そのことから、当館と名古屋芸術大学の金子敦子教授とともに現在の伝承調査を行い、その成果を基に本展示を行いました。伝承者の方々は、演奏者は少ないながらも「日本の楽器」「郷土の楽器」と大切にされ、また、子どもたちへの伝承をはじめ地道な活動を行っています。本展をきっかけに、一絃琴、二絃琴に多くの方が関心を持っていただければ幸いです。最後に、本展では各団体より貴重な資料を数多くお借りし充実した展示を行うことができました。心より感謝申し上げます。

企画展「一絃の琴・二絃の琴～現在に伝わる和の響き～」
会 期：平成 28 年 9 月 11 日（日）～ 2016 年 10 月 11 日（火）
入館者：7,978 人
協 力：明日香の響保存会、東流二絃琴東会、須磨琴保存会、
清虚洞一絃琴、白鷺会、高知県立高知丸の内高等学校、
神戸市立高倉中学校、越路琴製造組合
特別協力：飛鳥寺、須磨寺
考証協力：金子敦子（名古屋芸術大学教授）

特別展「世界を聴いた男、民族音楽学者・小泉文夫からのメッセージ」開幕



インド音楽コンサートと展示全景



メッセージパネル



インドネシア音楽コンサート

東京藝術大学音楽学部楽理科元教授で世界的に著名な民族音楽学者であった小泉文夫氏（1927～1983）が残した数々のメッセージを紹介する展示が10月23日（日）から始まりました。浜松市楽器博物館が2014年度に同氏の名を冠した小泉文夫音楽賞を受賞したことを記念して、東京藝術大学小泉文夫記念資料室と共催で開催するものです。展覧会初日にはインドネシアとイギリスの音楽が行われました。

展示資料には、小泉氏が世界各地を調査した時の自筆のフィールドノートや、著書、雑誌への投稿、新聞記事、編集や監修に携わったレコードやカセットテープ、

CD、テレビ番組の台本、現地で集めた楽器など、約100点が展示されています。また海外調査の映像や写真、夫人の小泉三枝子氏にあてた手紙も展示されています。

現在ではワールドミュージックやクロスオーバー、世界音楽という言葉が広がっていますが、今から30年以上も前に、すでに世界の音楽の価値を日本に広めた小泉氏の功績の偉大さを、改めて認識できる展示です。展覧会は11月27日（日）までで、13日（日）には「インドのヴィーナー」、20日（日）には「キルギスのコムズ」のミニコンサートと小泉氏の功績を振り返る講演会が開催されます。

楽器体験ワークショップ「清虚洞一絃琴を弾こう」



企画展「一絃の琴・二絃の琴～現在に伝わる和の響き～」の関連イベントとして、清虚洞一絃琴のワークショップを開催しました。一絃琴は自己修養のための楽器として、江戸時代には高僧・武士・文人達の嗜みとして演奏されました。現代では日本各地で一絃琴や二絃琴の演奏団体によって、演奏会や若い世代への教育普及が行われています。

一絃琴はその名のとおりに細長い一枚の板に一本の絃を張った楽器で、とてもシンプルな姿をしています。演奏する際は蘆管（ろかん）と呼ばれる筒状の爪を、絃を弾く右手ひとさし指と、絃を押さえる左手中指にはめめます。受講者の皆さんは講師の峯岸さんの合図にあわせて弦をはじき、何度か繰り返すうちにしっかりとした音が出せるようになりました。次に楽譜の読み方や絃のはじき方の種類等を教えていただきました。楽譜は絃を押さえる位置を表す漢数字や片仮名等で縦書きに書かれています。絃を手前や向こう側に弾いたり、絃を押さえる左手をすばやく移動させたり、楽譜に指示されている弾き方を一つ一つ丁寧に教えていただいた後、歌がついている曲の演奏にも挑戦しました。皆さん積極的に声を出してくださり、初めて触れる楽器をとても楽しそうに演奏されていました。

最後に受講者の皆さんから一言ずつ感想をいただき、多くの方が一絃琴という楽器を演奏することで豊かな時間を過ごすことができたり、気持ちが変化していく様子を体感できたとおっしゃっていたのがとても印象的でした。2時間という短い時間でしたが、とても充実したワークショップとなりました。

日 時：平成28年9月17日（土） 14:00～16:00
 会 場：アクティティ浜松 研修交流センター
 講 師：峯岸一水（みねぎし いっすい・清虚洞一絃琴宗家四代）、
 篠沢一激（しのざわ いちけん）
 人 数：8人

レクチャーコンサート No. 184

「スウェーデン伝統音楽の現在～伝統と革新と～」



日時：平成 28 年 10 月 5 日（水） 19:00～21:00
会場：楽器博物館 天空ホール
出演：ヨセフィーナ・パウルソン（ニッケルハルパ）
ヨナス・オーケルド（フィドル、ハルダンゲルフィドル、
ギター、スウェディッシュ・バグパイプ）
人数：70 人

ヨセフィーナ・パウルソンさんとヨナス・オーケルドさんをお迎えし、スウェーデンの音楽を紹介するレクチャーコンサートを開催しました。

ヨセフィーナさんが演奏するニッケルハルパは弦を擦って音を出す弦楽器です。弦は 2 階建てのようになっているので、2 階に 4 本、1 階に 12 本の弦が張られています。2 階の弦を擦ると 1 階の弦が共鳴して独特な響きを生み出します。ヴァイオリンのように指で直接弦を押して音を変えるのではなく、弦を押さえるキーで音程を変えます。そしてヨナスさんはギターやフィドル、バグパイプなど、1 人で何役もこなしていました。中でもバグパイプは他の楽器に比べて音が大きく、初めてバグパイプの音を聴いた方はとても驚いていました。

伝統音楽「ポルスカ」や、お 2 人が作曲した即興曲などが演奏されました。スウェーデンの伝統音楽「ポルスカ」はポーランドから伝わったダンス音楽がスウェーデンで定着した 3 拍子の伝統音楽のことです。この音楽に合わせて男女で踊ります。伝承曲「最初のポルスカ」や「シェディンのポルスカ」に続き、ヨセフィーナさん作曲の「バックグルンデン・ポルスカ」やオーケルドさん作曲の「帰郷」などが演奏されました。どの曲でも必ず足で拍子を刻みながら演奏していたのが印象的でした。雄大さと繊細さを併せ持つ音色に癒されるひとときとなりました。

レクチャーコンサート No. 185

「ひとつの音に世界を聴く～一絃琴と尺八による和洋の出会い～」



日時：平成 28 年 10 月 12 日（水） 19:00～21:00
会場：楽器博物館 天空ホール
出演：峯岸一水（みねざし いっすい・清虚洞一絃琴宗家四代）、
エリザベス・ブラウン（尺八）、
ラルフ・サミュエルソン（尺八）
入場者：127 人

企画展「一絃の琴・二絃の琴～現在に伝わる和の響き～」関連イベントとして、清虚洞一絃琴宗家四代の峯岸一水さんと、尺八のエリザベス・ブラウンさん、ラルフ・サミュエルソンさんをお迎えし、レクチャーコンサートを開催しました。企画展ではいくつかの少数絃の琴を紹介しましたが、清虚洞一絃琴はそのうちの一つです。

演奏される音は、決して大きな音とは言えません。しかし、その小さな音に耳を傾け、音が減衰していくその先を聴くことで、「ここはなんて静かなんだろう」と、その空間の静寂に気付ける楽器です。峯岸さんは、そうすることで「心が平らかになる」とおっしゃっていました。

元来、自らの精神修養のために演奏していた楽器なので、人前で演奏するものでも、人と比べるものでもありません。自分が出した音に対して、むやみに反省する必要もなく、その音の一瞬一瞬を大切に生きる、という考え方だそうです。

今回は琴古流尺八本曲より「下がり葉の曲」などの伝統曲から、初めてのアメリカ人作曲家による尺八のための作品、ヘンリー・コーウェル作曲の「The Universal Flute」等の現代曲まで、幅広く演奏してくださいました。また、ステージと客席後方から同時に演奏するなど、演奏の仕方も工夫され、音を立体的に楽しむことができました。伝統的な楽器を使いながらも現代的な音楽にも通じた、奥深いコンサートでした。

ミニコンサート「清虚洞一絃琴」

峯岸一水さん、篠沢一激さん、萩野一汎さんをお迎えして、清虚洞一絃琴のミニコンサートを開催しました。様々なものをそぎ落とし、一枚の板に一本の絃を張った単音しか出すことができない楽器ですが、峯岸さんたちの演奏はとても表情豊かでした。「最後の音が消える先に何が聞こえるか」という峯岸さんの言葉を受けて、お客様は音の消える瞬間にじっと耳を傾け、音の余韻を楽しんでいる様子でした。心を静かに、聞こえてくる音に耳を澄ませることで、精神性を重んじる一絃琴という楽器ならではのコンサートになりました。

日時：平成28年9月18日(日) 14:00、15:30(各30分)
会場：楽器博物館 天空ホール
出演：峯岸一水(みねざしむすび)、篠沢一激(しのざいいちけん)、萩野一汎(おぎのいちはん) 入場者：187人



ミニコンサート「フルートとピアノ」

嶋田陽子さん(ピアノ)と当館職員の小池真梨(フルート)によるミニコンサートを開催しました。嶋田さんはクラシックだけでなくラテンピアニストとしても活躍されています。今回はクラシック以外のジャンルを取り入れたコンサートでした。ジャズのアレンジで「Over the Rainbow」「枯葉」、タンゴ音楽の巨匠ピアソラの「ブエノスアイレスの冬」「リベルタンゴ」、そして浜松市出身の村松崇継さんの「EARTH」も演奏されました。フルートというクラシックをイメージする方が多いかもしれませんが、幅広いジャンルの音楽にとっても合う事が実感して頂けたかと思えます。

日時：平成28年10月22日(土) 14:00、15:30(各30分)
会場：楽器博物館 天空ホール
出演：嶋田陽子(ピアノ)、小池真梨(フルート) 入場者：80人



楽器博物館友の会コンサート

友の会主催の会員限定コンサート「シェイクスピアの音楽～リュートとソプラノによる～」を開催しました。シェイクスピア(1564～1616)の時代、すなわちエリザベス一世(1533～1603)の統治下のイギリスでは、音楽は王侯貴族から庶民まで広く浸透し、上流社会ではリュートを嗜む事を自慢していました。今年はシェイクスピアの没後400年に当たることから、「ワインザーの陽気な女房たち」より「グリーンズリーヴス」や、『ロミオとジュリエット』より「心の慰め」など、その戯曲を支えた音楽の数々を、佐野健二さん(リュート)と平井満美子さん(ソプラノ)に演奏していただきました。

日時：平成28年10月22日(土) 18:15～19:15
会場：楽器博物館 天空ホール
出演：佐野健二(リュート)、平井満美子(ソプラノ) 入場者：99人



博物館日誌

- 9/11(日)～10/11(火)
企画展「一絃の琴・二絃の琴～現在に伝わる和の響き～」開催
- 9/11(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤楽器)、14:00(アフリカ)
参加者：34人
- 9/13(火)～9/15(木) 移動楽器博物館 浜松市立河輪小学校
- 9/17(土) 楽器体験ワークショップ「清虚洞一絃琴を弾こう」
14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：峯岸一水、篠沢一激 参加者：8人
- 9/18(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤楽器) 参加者：45人
- 9/18(日) シリーズ音楽の広場「一絃琴」 14:00、15:30 天空ホール
出演：峯岸一水、篠沢一激、萩野一汎 入場者：187人
- 9/19(月) 楽器づくりワークショップ「とり笛をつくろう！」
10:30、11:30 地下展示室 指導：ボランティア 参加者：24人
- 9/25(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤楽器) 参加者：21人
- 9/25(日) シリーズ音楽の広場「フルートとリコーダー」
14:00、15:30 天空ホール
出演：桐畑奈央、梶原弘子、松尾圭子(当館職員) 入場者：99人
- 10/2(日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤楽器) 参加者：39人
- 10/5(水) レクチャーコンサート「スウェーデン伝統音楽の現在～伝統と革新と～」
19:00 天空ホール 出演：ヨナス&ヨセフィーナ
(ヨナス・オーケルンド、ヨセフィーナ・パウソン) 入場者：70人
- 10/9(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤楽器)、14:00(アジア)
参加者：35人
- 10/11(火) 企画展「一絃の琴・二絃の琴～現在に伝わる和の響き～」終了
期間中入館者数：7,987人
- 10/11(火)～10/13(木) 移動楽器博物館 浜松市立北浜東小学校
- 10/12(水) レクチャーコンサート
「ひとつの音に世界を聴く～一絃琴と尺八による和洋の逢合い～」
19:00 天空ホール 出演：峯岸一水、エリザベス・ブラウン、ラルフ・サミュエルソン 入場者：90人
- 10/16(日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤楽器) 参加者：70人
- 10/22(土) シリーズ音楽の広場「フルートとピアノ」 14:00、15:30 天空ホール
出演：嶋田陽子、小池真梨(当館職員) 入場者：80人
- 10/22(土) 楽器博物館友の会コンサート
「没後400年記念 シェイクスピアの音楽～リュートとソプラノによる～」
18:15 出演：佐野健二、平井満美子 友の会会員参加者：99人

- 10/23(日)～11/27(日) 特別展
「世界を聴いた男、民族音楽学者・小泉文夫からのメッセージ」開催
- 10/23(日) 特別展オープニングコンサート「スダの音楽」
11:00、14:00 天空ホール 出演：パラグナ・グループ
入場者：127人
- 「イギリスのリュート音楽」 13:30、15:00 天空ホール
出演：佐野健二、平井満美子 入場者：106人
- 10/30(日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤楽器) 参加者：52人
- ♪ギャラリートーク
(職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで10分間ほど解説)
9月 計101回 参加者：1,078人
10月 計102回 参加者：1,450人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説 ※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います
- レクチャーコンサート
「パワフル口琴トリオ 熱狂のハンガリアン・トラディション」
11/26(土) 18:30 天空ホール
出演：ゾールド(シラーチ・アーロン、オルマー・シクリスティアン、ドラバント・ペーラ)
- イブニングサロンコンサート
「I'll Be Home For Christmas」
12/14(水) 19:00 天空ホール 出演：鈴木麻美、藤森間一、鈴木辰美、星合厚
「国際古楽コンクール《山梨》2016入賞者コンサート Pure&Crystal-Guitar Duo」
12/17(土) 18:30 天空ホール 出演：Duo HPD(井本響太、山田唯雄)
- 講座
特別展 記念講演会「『日本の音』を読み直す―小泉文夫と日本音楽」
11/20(日) 14:00 研修交流センター 講師：植村幸生
- ミニコンサート 天空ホール
11/13(日) 11:00、14:00、15:30 「インドのヴィーナー」
出演：的場裕子、竹原幸一
11/20(日) 11:00、13:00、15:30 「キルギスのコムズ」
出演：ウメトバエワ・カリマン、池田千洋

浜松市楽器博物館だより

平成28年11月10日発行 No.113 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1 TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
URL <http://www.gakkihakuhaku.jp/>